



日本聖公会祈禱書とは、
日本聖公会において信仰と生活を共にする人が、
神に造られ、いのちを与えられた民として、
キリストと共に旅路を歩いていくために用いる祈りの書です。

－ 祈禱書改正ミッション・ステートメント － (p4にて詳述)

『日本聖公会祈禱書』の改正にあたって

委員長 主教 ヨハネ 吉田 雅人

私たちが現在用いている『1990 年日本聖公会祈禱書』は、使用され始めて今年で 31 年目となりました。「へー、もうそんなに長く使っ



ているんだ」と感慨深い思いがいたします。今から 50 年ほど前、私の母教会で教会実習をしておられた T 神学生から「祈禱書が変わるよ」と聞かされ、「エッ !! ようやく馴染んできたところなのに、変わってしまうんですか」と答えたことを思い出します。

その後、1974 年開催の第 33(定期)総会で『(試用)口語祈禱書』(内容は、朝夕の礼拝・嘆願・特祷 使徒書 福音書)が承認され、初めて口語化された礼拝式文を手にとることになりました。何年かごとに試用式文が発行され、1986 年第 39(定期)総会で承認された『日本聖公会改正祈禱書』(いわゆるオレンジ本)が出版されます。

当時私は神戸教区の聖職でしたが、先輩聖職と相談して「祈禱書の改正」をこの年の教役者修養会の主題として取り上げました。そして聖

公会神学院校長で祈禱書改正委員だった森紀旦師に主題講演をしていただき、とても刺激を受けました。なおこのオレンジ本には多くの修正点が見つかったため、1988 年第 40(定期)総会に改正案が提出されて改めて協賛を得、1990 年第 42(定期)総会で確定したのです。

＜なぜ祈禱書は改正されるのか＞

－世界の動きから－

聖公会の最初の祈禱書は 1549 年に英国で作成された『第 1 祈禱書』でした。この祈禱書はそれまでのローマ・カトリック教会の典礼書からすると全く新しい視点で作成されたのです。ラテン語ではなく英語さえ読めれば誰でも使える、しかも揺り籠から墓場まで用いる諸式を一冊に収めたものでした。宗教改革後のイングランド市民が、考えの違いはあってもこの祈禱書を用いて共同の礼拝を献げることで、教会として一体になっていくためのツールでした。

しかしその 3 年後に改正された『第 2 祈禱書 (1552 年)』は、『第 1 祈禱書』に残されていたローマ・カトリック色を一掃し、明確なカルヴィン主義の立場で作成されたのです。その後 3 回の改正を経て確定した 1662 年の『第 5 祈禱書』は現在でも使用されています。これは基本

的には『第2 祈祷書』の影響を色濃く残したもので、英国聖公会の宣教活動によって世界各地に建てられた諸聖公会も、『第5 祈祷書』を基に若干の修正を加えたものか、それを自国語に翻訳したものを用いていたのです。

それが大きく変わり始めるきっかけが、19 世紀から始まった「礼拝改革運動(リタージカル・ムーブメント)」でした。ローマ・カトリック教会の幾つかの修道院が知的部分と実践的部分を担い、超教派的な運動に展開していきます。その中心は「神の宣教」の強調と「イエスへの集中」であり、それらは第2 ヴァチカン公会議で公認された礼拝改革に繋がっていきました。

聖公会においても第1 次世界大戦後、礼拝改革運動の影響や、初代の古い文献が発見されたことなどもあり、祈祷書改正の動きが世界的なうねりとなりました。1930 年前後には教会生活における聖餐式の中心性が強調され、それを刷新する動きが始まりました。このような動きを受けて、1958 年に開催されたランベス会議は祈祷書改正にあたっての指針を発表したのです。

＜なぜ祈祷書は改正されるのか＞

ー日本における独自の改正ー

私たちの日本聖公会においては、1959 年まで使用された『1938 年祈祷書』までは、基本的に『第5 祈祷書』の翻訳でした。1941 年第20 総会は祈祷書改正を決議しますが、実際の作業は1947 年から始まり、12 年にわたる準備を経て1959 年開催の第26(定期)総会で『1959 年祈祷書』として可決承認されました。

この祈祷書改正の特徴は、①礼拝改革運動の諸成果を取り入れ、日本聖公会が独自に作成した。②特に「聖餐式文」の改正に力を注ぎ、初代教会の礼拝の回復を目指して共同体性や感謝賛美を強調した。③「幼年」と「壮年」に分かれていた洗礼式文を一つにした。④病者訪問

式で病者の思いに配慮しない「父の懲らしめ」といった言葉を全面削除した、などです。ほかにもありますが、あえて申し上げれば『第1 祈祷書』の精神を回復すること、個人的信仰を強調するよりも共同体性を回復しようとしたことが大きな特徴だったと言えるでしょう。

その後、『1959 年祈祷書』が用いられ始めて12 年後の1971 年第31(定期)総会は、祈祷書の口語化を含む抜本的再検討を行うことを決議しました。そして19 年にもわたる改正作業の末、1990 年第41(定期)総会で『1990 年祈祷書』を可決承認しました。この祈祷書の改正の特徴は、①現代語化する。②感謝と共同体意識をより明確化する。③キリストの復活に焦点を当てて強調する。④多様性を持たせる。⑤「神の宣教」を中心に考える、などでした。

＜では、今回の改正は＞

私たちが『1990 年祈祷書』を用い始めた後、2000 年に英国聖公会が、2004 年には大韓聖公会とアイルランド聖公会が祈祷書を改正しました。日本聖公会でも2014 年に祈祷書改正準備委員会が建てられて「改正の理念」を協議し報告しました。そして2016 年には祈祷書改正委員会が設置されて作業が始まりました。

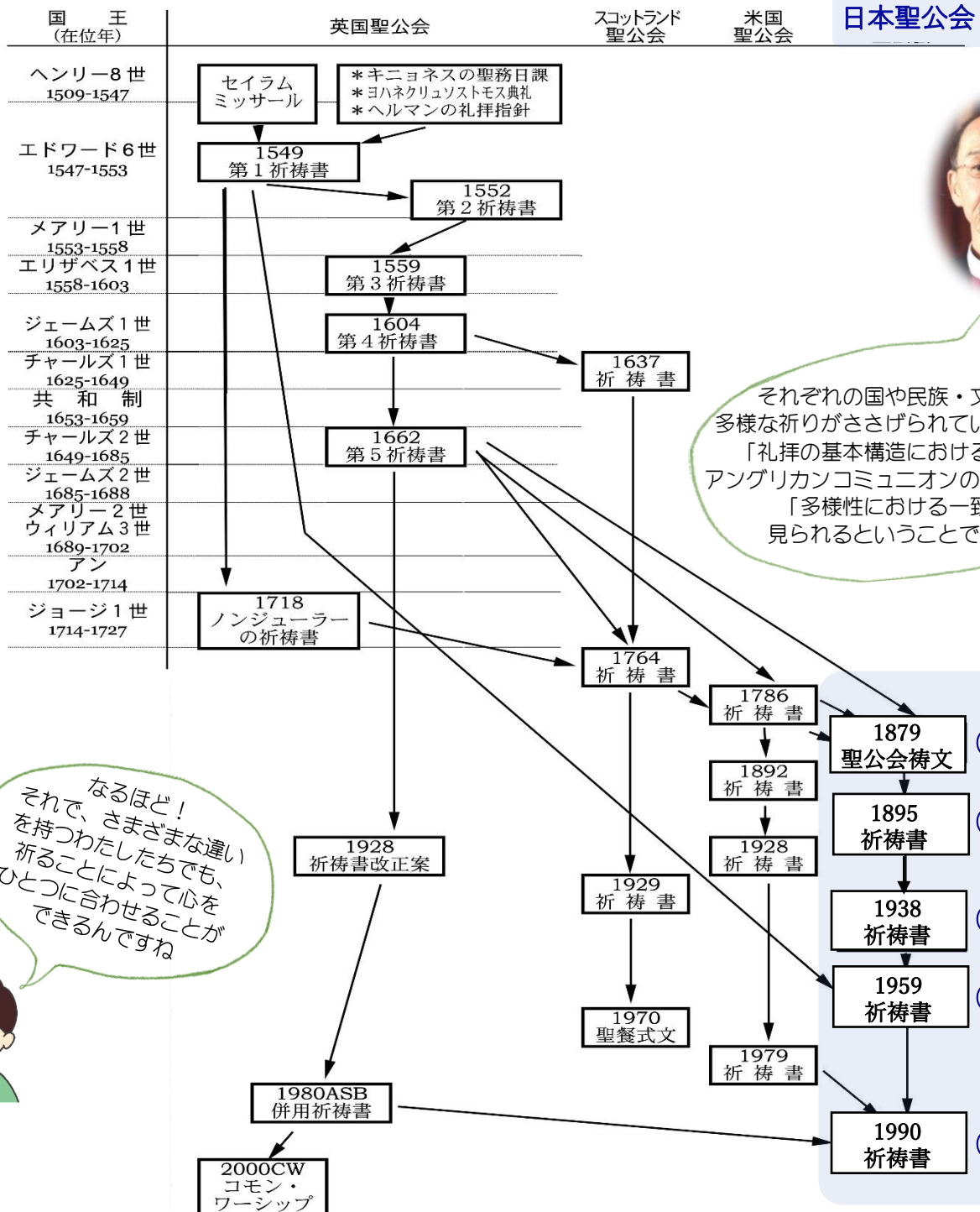
その理念の詳細については、この後の市原司祭の説明にお任せしたいと思います。いずれにせよ改正される『祈祷書』が、私たちの「信仰の旅路の同伴者、日々の信仰生活の導き手」として、現代社会の様々な多様性に少しでも応答できるものとなれればと願っています。

これから祈祷書改正に関わる様々な動きを、このニュース・レターを通してお伝えしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

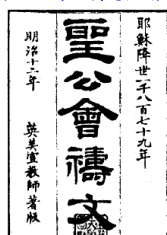


聖公会祈祷書の系譜

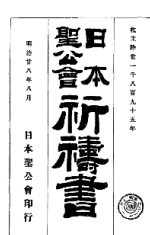
『今さら聞けない?! キリスト教』(吉田雅人著) より



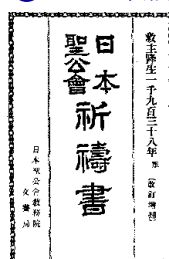
①1879 年版
(聖公会祷文)



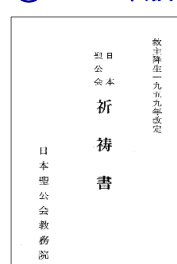
②1895 年版



③1938 年版



④1959 年版



⑤1990 年版



祈禱書改正「ミッション・ステートメント」について – 基本的理念と方向性 –

司祭 市原信太郎（祈禱書改正委員会実務担当者・中部教区）

準備委員会の存在

今回の祈禱書改訂作業は、2014 年の第 61 総会で祈禱書改正準備委員会（以後準備委）が設置されたことによって始まっています。この総会では、祈禱書改正が日本聖公会にとって根幹に関わる大事業であることに鑑み、いきなり改正作業を開始するのではなく、将来の祈禱書の基本方針や基本的課題を明らかにした上で改正作業を行うために準備委が設置されました。現在の祈禱書改正委員会（以後改正委）は、この準備委を受け継ぐ形で 2016 年の第 62 総会にて建てられた委員会です。

準備委員会での議論

この準備委は自身の任務を「理念の構想」と定め、1 総会期の任期中様々な議論を行いましたが、その議論は最終的に「ミッション・ステートメント」の形にまとめられました。詳細は第 62 総会の資料にありますが、ここではその議論の背後にあるものをご説明したいと思います。

祈禱書の理念

まず、改正される祈禱書の特徴として、以下の 10 項目が挙げられました。

1. すでに礼拝委員会が研究済、現在も研究中の課題を反映させる
2. 2012 年宣教協議会の提言「すべてのくいのち」の尊厳に基づいた礼拝」に応答する
3. 「宣教の五指標」の精神を反映させる
4. 日本の祈禱書として、キリスト者が少数である社会という視点を持つ
5. エキュメニカルな視点を持つ
6. 日本聖公会の現状を踏まえる

7. わたしたちの現代の状況に応答し、神の創造の業に参加する
8. 信仰者としての旅路における同伴者となる
9. 信徒の日々の信仰生活の導き手となる
10. 信徒の奉仕職を意識し強める

ミッション・ステートメント

これらの理念について、さらに議論を進めた結果、以下の「ミッション・ステートメント」がまとめられました。

日本聖公会祈禱書とは、
日本聖公会において信仰と生活を共にする人が、
神に造られ、いのちを与えられた民として、
キリストと共に旅路を歩んでいくために用いる
祈りの書です。

ミッション・ステートメントの議論の背景

✓ “Common”についての議論

ミッション・ステートメント自体は短い文章ですが、ここに至るまでには多くの議論が重ねられ、その中で特に大切だったのは「“Common”（共同、共通）とは何か」という問いでした。

伝統的には、祈禱書を「Book of Common Prayer」（共同の祈りの書）と呼んできました。従って、祈禱書の理念の議論ではこの“Common”をどう理解するかがカギだということが、委員会の早い段階から認識されていました。

しかし一方で、この“Common”については様々な解釈があり得ます。20 世紀半ばまでは、

「聖公会の一致は礼拝体験の一致」であることが強調され、各国の祈祷書は基本的にイングランドの1662年祈祷書を元にしていました。しかし、20世紀後半になると、聖公会全体で祈祷書改訂が行われるようになり、現在のようにそれぞれの管区が多様な特徴を有する祈祷書を持つことになりました。このような中での“Common”は、昔のように単純な理解で済ませるわけにはいかなくなりました。

✓ ライフを共有する共同体

この点を論じる中で、「ライフ life」というキーワードが浮かび上がってきました。「ライフ」とは「生活」とも「命」とも「人生」とも訳されますが、私たちの間にある“Common”とはこの「ライフ」が生活化され、共有されることではないか、という視点が議論の中で共有されてきました。

私たちの祈祷書は「日本聖公会祈祷書」と呼ばれますが、この「日本聖公会」を、単なる所属や帰属ではなく、この「ライフ」を共有している共同体のことであると理解すると、ぐっと視点が広がります。洗礼を受けた信徒を核としつつも、「ライフの共有」、すなわち信仰生活を共に送るという過程にある人々や、教会の内外で様々な形での交わりにある方々も、このまなざしの中に含まれてきます。そして、聖公会の交わりにある世界の教会や、さらにはキリスト者全般も、どこかでこの「ライフ」を共有する仲間であるにとらえる可能性が出てきます。そして、さらに広くは神に造られ、いのちを与えられたすべての人々とも、この被造世界の中で「ライフ」を共有するものと見ることができます。

祈祷書はある部分では地域性を持ちますが、一方では「普遍の教会」の祈祷書であるということも確かです。その意味で、私たちの祈祷書は「普遍の教会の祈りの書」でありつつ、「この共同の祈りの書＝日本聖公会祈祷書」を具体的

に用いて「ライフ」を共にする人々によって、「日本聖公会の祈祷書」に「なる」のです。

✓ 共に旅路を歩む共同体

キリスト者に「なる」ことは洗礼を受けた瞬間に完了するのではなく、生涯をかけて歩む信仰の過程そのものです。「ライフ」を共有するとは、この信仰の旅路を共にし、共に成長していくことでもあります。

この旅路の中で、私たちは様々な出来事に出会います。祈祷書に様々な牧会的諸式が収められているのは、この旅路を共に歩む人々が用いる書であることの現われです。この旅路は、キリストが共に歩んでくださる旅路でもあり、キリストご自身がなさる旅にわたしたちが加えられていくことでもあります。

現代の祈祷書は、様々な形の牧会的諸式を豊かに持つ傾向にあります。それは、その祈祷書を用いて「旅路を共に歩む」ことが意識された結果とも言えます。

これからに向けて

当委員会の使命は、理念としての「ミッション・ステートメント」に基づき、それを具体的に祈祷書として形にしていくことにあります。現時点では、まだ具体的にお示しできるものはありませんが、2016年の設立以来この5年間、祈祷書改正委員会自身が「ライフを共にする」作業を続けてきたこと、そしてその中で祈祷書改正の「旅路を共に歩んでいる」のは間違いのないところです。

これからいよいよ、各作業グループはこれまでに行ってきた準備作業についての第一次内部審査会を経て、改正祈祷書本文の起草に入るというステップに移っていきます。まだまだ先の見えない、足の長い作業が続いていきますが、どうぞ皆さまのお支えをお願いしたいと思います。

祈祷書改正にあたり、祈祷書や礼拝に関するエッセイを連載いたします。執筆者は加藤博道主教です。私たちが改めて、祈祷書の本質や聖公会の礼拝の豊かさについて思い巡らせることができますように願っています。



エクレシア・オランソ

祈る教会

— 聖公会の礼拝と祈祷書 < 1 > —

主教 加藤 博道

「こういうわけで、私たちもまた、このように多くの証人に雲のように囲まれているのですから、すべての重荷や絡みつく罪を捨てて、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか。信仰の導き手であり、完成者であるイエスを見つめながら、走りましょう」

(『ヘブライ人への手紙』第12章1節以下。『聖書協会共同訳』)

本当に忍耐の必要な日々が続いてきました。集まること、一緒に歌うことも決して当たり前ではなかったのだと、初めて経験させられたように思います。

さて、仙台基督教会の隣に瀟洒な結婚式場が建っています。建設当時、「そちらが結婚式をなさっている時に、こちらは葬儀を行っている、ということは普通に起こりますよ」と伝えたら、慌てて社長が会いに来ました。結婚式場は結婚式しかないでしようが、教会は人生のすべての事柄に関わります。結婚式をしている時に、ベストリーに棺が安置されているということも起こります。もちろんそれぞれに対する十分な配慮は必要ですが、教会の信仰において、神の前で、それらはどちらも人生のかけがえのない時です。喜びもありますが、教会の多くの関心は代祷が示しているように、病者のこと、傷ついている人々

のこと、国内外の多くの憎悪や紛争とその犠牲者、そして死者に向けられています。人生の折々、とくに危機的な時、人生の重要な瞬間にその人のために教会は祈り、その祈りに主イエスが共にいてくださること、キリストの臨在を信じてきました。病者の訪問の祈りや葬送式等、<牧会的な諸礼拝>が教会の神学と伝統に根ざしつつも、さらに今を生きる人間の現実と触れ合うものとして深められていくことは、聖公会の礼拝と祈祷書の大切な課題と思います。「祈り」という意味には個人的な言葉による祈りだけではなく、それに伴う象徴的な所作や共同的な動作、音楽や沈黙も含まれます。



＜救いの歴史とキリストの秘義＞という礼拝のみならずキリスト教信仰に関する重要な見方、理解の仕方は、とくに1960年代以降、ローマ・カトリック教会によって打ち出され、聖公会にも影響を与えました。

「救いの歴史(救済史)」、それは天地創造から始まって、人間の墮罪、エジプトからの解放、多くの預言者の苦難や繰り返される人間の裏切り、そして時が満ちての主の受肉降誕、生涯、受難、死、復活、昇天、聖霊降臨、さらに最終的な完成の時の待望へと、今も続いています。わたしたちもその歴史を「信仰の導き手であり、完成者であるイエスを見つめながら」歩んでおり、その救いの歴史の中心に「キリストの過越の秘義(パスカル・ミステリー)」があります。主イエスの受難と死と復活、それはとくに聖餐式において記念・想起されますが、聖餐式だけでなく、私たちの信仰、礼拝のすべての基調となるものです。死から命へと過ぎ越していく、新しい復活の命に私たちも与っていく。こうした考え方は従来以上に、前に向かって進んでいく、ダイナミックな信仰の姿勢を可能にしました。

「救いの歴史」「キリストの過越の秘義」という表現を日本聖公会は表立って使ってはいませんが、現行祈祷書の旧約聖書朗読から始まる「3年周期・3朗読」の聖餐式聖書日課の採用(カトリック教会の朗読配分を一部改訂したアメリカ聖公会祈祷書からほぼそのまま導入)や復活の意義とその期節を従来以上に強調した教会暦等に、それらの理解は反映しています。海外の教会、他

教派によって研究されてきた礼拝神学的な成果を感謝して受け取ると同時に、やはり私たちの教会の問題として借り物ではない勉強と実践の努力も必要でしょう。「旅」とか「道行き」という感覚や言葉は私たちにとってより近づきやすいように感じます。

「典礼(礼拝)とは、神学、歴史、霊的洞察、そして牧会配慮の豊かな複合体である」(A.チュプンゴ)。祈祷書改正の仕事は大きな恵みであると同時に、膨大な研究と作業の労苦を必要とします。祈祷書改正委員会の働きのためにお祈りいただきたいと思います。

(前・祈祷書改正委員会担当主教)

*「エクレシア・オランソ」は、典礼(礼拝)の復興・刷新運動(リタージカル・ムーブメント)の初期、1918年以降、ドイツのベネディクト会マリア・ラーハ修道院から刊行された典礼(礼拝)研究、普及のための叢書シリーズの名称です。リタージカル・ムーブメントは当初はフランス、ベルギー、ドイツの修道院が中心となり、その後、とくに英国等においては、地域の教会(パリッシュ)の活性化を目指す牧会的な運動へと展開していきました。



(大阪・川口基督教会礼拝堂)

祈禱書改正スケジュール（予定）

年 度	これまで／これから作業
2014－16	「祈禱書改正準備委員会」による準備作業 改正祈禱書の理念（ミッション・ステートメント）作成、課題の明確化、 改正に関するアンケート実施、改正祈禱書の構成・スケジュール検討 など 2016 年 日本聖公会総会にて「祈禱書改正委員会」設立議案可決
2016－18	「祈禱書改正委員会」発足 基礎研究作業（起草に先立つ先行作業） 委員会全体での学習（翻訳含む）、アンケートの解析、改正祈禱書に含める内容 についての検討、各国祈禱書の調査、『聖書協会共同訳』聖書の確認 など
2018－20	祈禱書各部分に関する研究作業 祈禱書に含める項目毎のチームに分かれての作業開始 （朝夕の礼拝、期節の礼拝、諸祈祷、特祷、聖餐式、入信の式...等） 2020 年 日本聖公会総会にて中間報告、「祈禱書改正委員会」継続議案提出
2020－22	改正点確定、本文起草、試用版発行（部分ごとに） 新委員とともに引き続きチームに分かれての作業継続
2022－24	試用版発行（部分ごとに）、フィードバック・修正作業 2023 年中に最終ドラフト（改正祈禱書）出版準備 2024 年 日本聖公会総会にて最終ドラフト（改正祈禱書）提出、第一回協賛
2024－26	出版作業 2026 年 日本聖公会総会にて第二回確定、 改正祈禱書出版

◆祈禱書改正委員の紹介 ご遠慮なく、なんでもお尋ねください！

担当主教：主教 吉田雅人（東北）2018.2 より（委員長兼務）

委員：司祭 市原信太郎（中部・実務担当者）、司祭 木村直樹（北関東）、司祭 笹森田鶴（東京）、
司祭 竹内一也（横浜）、辻 彩乃（大阪）、司祭 永谷 亮（北海道）、司祭 永野拓也（神戸）、
司祭 成岡宏晃（大阪）、司祭 林 和広（神戸）、布川悦子（東京）、司祭 宮崎 光（東京）、
司祭 大和孝明（中部）、主教 吉田雅人（東北・委員長）

*～ 2017.6 担当主教：主教 加藤博道（東北）

*～ 2020.10 委員：菊地伸二（京都）、高橋牧（東京）、司祭 麓 敦子（京都）

「祈禱書改正ニュース」第1号をお読み頂き、ありがとうございます。これから、祈禱書改正
に関するさまざまな報告とともに、祈禱書や礼拝について、あらためて考えるきっかけとなる
ようなニュース・レターを目指したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
次号の発行は2022年2月頃の予定です。

祈禱書改正委員会「広報」チーム

※祈禱書改正委員会のホームページを開設しました。併せてご覧ください。
<https://johnan18942.wixsite.com/nskk-prayerbook2026>